

2. アンケート回答一覧

有識者に聞く2007年旅行マーケット動向見通し 宿泊産業(1)

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット/トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内 旅行	海外 旅行	訪日 旅行	
口々 R ペール ウェスティンホテル東京 総支配人	◆	◆	◆	▲	◆	【海外】年々、中国は旅行素材として充実してきているとの実感がある。
金川 一男 (株)ホテル鹿の湯 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【国内】団塊の世代が定年の時代を迎え、それが国内旅行にどのような効果または変化を与えるか注目する。
鶴田 浩一郎 (株)鶴田ホテル(ホテルニューツルタ) 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【国内】着地型商品開発とその販売方法。ヘリテージツーリズム。
服部 秀暢 名古屋東急ホテル 執行役員 総支配人	▲	▲	▲	▲	▲	【全般】団塊の世代の大量リタイア、ビジネスのグローバル化、円安による訪日外国人へのメリット
渡部 俊一 東洋観光事業(株) ホテルブエナビスタ 取締役専務執行役員 総支配人	▲	▲	▼	▲	◆	【海外】団塊の世代が定年を迎え、短期間の海外旅行が増加する。
宮崎 高幸 雲仙宮崎旅館 社長	◆	▲	▲	◆	▲	【国内】地方観光地におけるロングステイ(連泊)の取り組みや消費者の意識の変化やその浸透具合。
船曳 富士夫 宿屋伝七 代表取締役	▲▲	▲▲	▲	▲▲	▲▲	【全般】景気回復に伴い、企業のインセンティブ等、個人旅行が増えると思う。各温泉地・観光地は独自の個性をアピールしないと取り残される。
中谷 次郎 (株)亀の井別荘 専務取締役	▲	▲	▲	◆	◆	【国内】近県、日帰りが主と思われるが、隣接九重町(大分県)にオーブンの日本一と称するつり橋目当ての人並みは目立っている。
寺田 順三郎 戸田家 取締役副社長	▼	▲	▼	▲	◆	【全般】益々二極分化が進み、高額か低額商品か、高級商品か俗商品か、高齢者か若年層か等々あらゆる分類の中で嗜好が両極端になる。
藤本 正孝 (株)城西館 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【国内】宿泊商品の二極化。本物を求める高品質高額商品と値頃感のある低額商品への二極化がより顕著になってくる。
渡辺 幸弘 (株)プリンスホテル 代表取締役社長	◆	◆	◆	◆	▲	【国内】団塊の世代の定年による余暇時間の増大による、国内旅行需要の拡大と季節波動の減少。
佐藤 義正 (株)ホテル大観 代表取締役	◆	◆	▼	◆	▲	【訪日】訪日旅行の外国人で特に増えると思われるのは中国からの観光客ではなかろうか。そうすると、初来日の割合が高くなるので東京と京阪神への観光と買い物を目的とした旅行になるのでは。
西村 肇 西村屋本館・西村屋ホテル招月庭 代表取締役	◆	◆	▼	▲	▲	【国内】さらに個間化、グループ化、高齢化が進む。少人数のお客様に喜ばれるきめの細かいサービス、お年寄の受け入れにやさしいまちや施設の整備が求められる。
森 行成 野沢温泉旅館組合 旅館さかや 組合長、代表取締役社長	▲	▲	▲	▲▲	▲▲	【国内】景気の回復は旅行需要を押し上げる。加えて'07年問題、団塊世代が旅に出る。団塊の世代は、決して団体となる。団塊は分解して個になって旅に出る。個人旅行(夫婦2人)、グループ旅行。満足度を求める旅になる。
新谷 尚樹 高山グリーンホテル 代表取締役社長	◆	▲	◆	▲	▲	【国内】ぎふデステニネーションキャンペーンが今秋行われ、本キャンペーンに向けてJRグループ6社、各エージェントの皆様が全国的に岐阜をPRしていただけるので大いに期待しています。これに向けて一部不通になっていたJR高山線が全通し、JR東海、JR東日本、JR西日本が連携して観光周遊ルートが組めることに注目。
櫻井 丘子 舌切雀のお宿 ホテル磯辺ガーデン 代表取締役	▲	▲	▲	▲	▲	【国内】温泉旅館本来の特長「そろいのゆかたで宴会いっしょに入浴」というなごみと共同意識の生まれる宿泊形態が企業、組織団体に見直されている。磯部温泉は首都圏から交通至便(JR、高速道路等)、そして当館はやや大型旅館で会議施設もあるため、集会・会議団体にアピール。旅館コンベンション・ビジネスを意識して誘客したい。
松下 衛 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【全般】余暇を過ごす、又は、趣味を満たす目的のある体験型旅行がもっと増え、旅行マーケット全般に旅行スタイルは今後も多様化していくと思います。

(注)* 記号: ▲▲上昇傾向、▲やや上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、—回答なし

*コメントの冒頭に【海外】とあるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【全般】「Asia全体の魅力づくり」です。その中で、日本の位置づけを明確にできたらと考えています。	やや大きい	シニアマーケットへの取り組みをもっと強化していけたら、ある程度のインパクトが必ずあると考えます。
【全般】団塊の世代の定年後のライフスタイルが社会全体をどのように変化させるか注視したい。	かなり大きい	楽観的に考えると旅行需要にかなりのプラス効果があると考えるが、老後生活の不安のほうが先行し、あまり消費にプラス効果が期待できないという悲観的な見方も出来る。いずれの方向性が出てくるか注目したい。
【国内】新三法(中活法関連)と観光地域づくりの動き。政府の観光施策全般、国交省、経産省の動き。	かなり大きい	中流意識は、リタイア層でも分化しているので、単純に旅行マーケットの拡大シナリオは描けない。特に、長期滞在、移住については注目が必要。
【全般】同左	やや大きい	自分への褒賞旅行の目的地として、国内・海外共に需要拡大が見込める。
【国内】各地の地域観光振興事業がどのように国内旅行ニーズを喚起させられるか。	やや大きい	感動を得られる商品、深い情報を得られる商品は消費が動く。特に女性の消費行動は、リタイアを契機に大きく変わる。
【海外】イラク戦争の行方。国内旅行への影響が大きい。	やや大きい	夫婦旅行商品の充実や施設の対応(特にロングステイ)が間に合うかどうか。温泉地方観光地のB&Bに対応が遅れ、海外に消費者が流れると思われる。
【国内】団塊の世代の大量定年に向けて、観光地の魅力づくりを進め、多様なニーズに対応するような体制を整える事が重要になってくる。	あまり大きくな	急激な旅行マーケットの増大にはまだつながらないと思う。
【国内】団塊世代や定年延長などの社会状況の中で、高年層の旅行意識の高揚が期待できる。	やや大きい	団塊世代、または、この世代を含む家族の動きが始めるのでは。
【全般】やはり団塊の世代の旅行や趣味趣向の方向、トレンド、また、企業群としては、中小企業の景気回復状況、旅館業としては低価格旅館の進出拡大。	かなり大きい	話題性に常に流されてしまいそうだ。つまり一部の地域や文化的なものに集中しやすい。反面、その一部の少数は特異な旅行形態に向く。
【国内】地域の行政、住民、観光関連業界等全てが一体となった取り組みが出来るかどうかで、地域間格差が拡大していく。情報量の多さ、選択の自由等を求めて、インターネット利用が更に増加し、予約に反映していく。	やや大きい	旅行目的が明確化。滞在型が増加し、周遊型も泊数、参加回数が伸び、全体として宿泊数が伸びる。環境、体験、健康などを重要視する商品への参加が増える。
【国内】景気回復は政府見解でも出ているが、それは企業の設備投資には回っているが、人件費にまでは回っていない。その影響がうまく回復していくれば、個人消費、旅行需要の拡大にもつながっていくと考えられる。	やや大きい	
【全般】いざなぎを越えた今の景気が結局は消費に結びつかないままに終息してしまうのではないかとの懸念を抱いている。	やや大きい	07年直ちに出てくるとは考えていない。旅行会社の企画旅行に飛びつく層ではないと思う。
【国内】社会の高齢化。「投資なくして繁栄なし」という宿泊業の金言にもかかわらず、ほとんどの旅館で金融機関の査定が厳しく融資が難しくなってきている。	やや大きい	特に変りはない。
【国内】過去3年間は、台風の襲来や、集中豪雨、地震、大雪と三年続きの自然災害に悩まされた。加えて愛知万博は、旅行の変革をもたらした。が今年は全体に伸びており、'07年は景気回復が後押しをする。さらに信州はJTB「日本の旬」キャンペーンに入る。	非常に大きい	少子高齢化というよりは健康な高齢者が圧倒的に増えたことを意味する。団塊は分解して個になり旅に出る。金もあり、趣味も多様、目も肥えている。そうした世代の旅行者の満足度の高い旅とは高品質の宿。又は健康、自然志向が有利となる。
【国内】やはり団塊世代の定年退職。いわゆる「2007年問題」です。旅行業界において存在感の大きい団塊世代がこれからどのような旅をしたいと考えているのか、旅行意識のマーケティングにより、エリア戦略、旅行商品の造成、施設のリニューアルを考えていきたいと思っている。	やや大きい	団体旅行の減少、日帰り旅行の増加、連泊、長期滞在型の旅の増加、パッケージツアーの増加、温泉地での滞在、湯治の増加。郷土料理など食を楽しむ旅、世界遺産への旅の増加。
【国内】安定的な低料金施設の増加と定着。(高級旅館も健在)。パブル期には贅沢を求めた大衆又これからリタイア団塊も、これからは安く回数多く、又、めづらしさ等を旅行に求めると思う。海外団体ツアーや個人高級客は別、バイキングでもOKで旅館のサービスよりFood&Bedの観光旅行を指向すると思う。M&A等で安く施設を得たグループが低料金でサービスする傾向が考えられる。	やや大きい	団塊世代のリタイアは段階的と思われその影響も段階的に表れると思う。 ①一部は第二のフルムーンブームのような高料金施設へ、一部は気軽に旅行自体を楽しむ低料金施設への回数が多い利用へ。 ②高齢者対応の施設(ベッド、イステーブルの食事、スロープ等)、料理、サービス(会議、相手の出来る社員の必要性)。
【国内】①東京だけでなく地方まで景気が波及するかどうか。 ②海外の政治、経済、社会状況の及ぼす影響度	やや大きい	07年度短期的には期待するほどのものではないと思うが、長期的には、量・質とも発展すると思う。但しそれには、シニア層に合った商品の開発が必要である。

有識者に聞く2007年旅行マーケット動向見通し 宿泊産業(2)

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット/トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内 旅行	海外 旅行	訪日 旅行	
井上 範 沖縄全日空ホテルズ㈱ 代表取締役社長	◆	▲	◆	▲	▲	【海外】特に団塊の世代のリタイアによる海外旅行の増加、更に、日本旅行業協会の2007年度目標、海外旅行2000万人の実現に向けて各旅行代理店の旅行商品の多様化。
秋月 清二 JRタワーホテル日航札幌 取締役総支配人	▲	◆	▼	◆	▲	【国内】旅行のスタイルがお仕着せから自由により加速し、体験・カルチャー、癒し等のテーマ(目的)を持った商品が注目を集め、価格と質のバランスがより問われる。
四方 啓暉 名古屋マリオットアソシアホテル 専務取締役 総支配人	▲	▲	▲	▲	▲	【訪日】外国人ビジネスマンの訪日そして訪名(名古屋)。特に地元企業に関係するインセンティブ、並びに技術者の動向。
新田 恭一郎 株式会社サンバレー 代表取締役社長	▼	◆	▲	▲	▲	【国内】団塊世代の細分化が進むため、目的・地域的特色を明確にしなければならない。一企業のレベルを超えて、地域間競争が激しくなる。企業間の連携と開放化が必要になっている。選べる宿泊、選び食べ歩く宿のニーズが高まり、一方では、オンラインがさらに進む。
浅野 謙一 夕映えの宿 汐美莊 代表取締役社長	▲	▲	◆	▲	▲▲	【国内】熟年夫婦を基本とした非日常における、日常的旅行のグレードアップ化と、ゆとり旅行。
本間儀左衛門 萬国屋 代表取締役社長	◆	◆	▼	▲	▲	【国内】いつまでも沖縄、北海道一辺倒ではないのではないか。熟年カップルの個人旅行の向かう先が当地でも藤沢周平ブームもあって動いているが見てこない。むしろ岩盤浴・エステなどの健康・美容施設に集まる若い層、中年の世代の方が確実に取り込めるのではないかという気がする。
岩井 一路 株式会社ハトヤ観光 代表取締役社長	◆	▲	◆	▲	▲	【国内】全国的に検定ブームが起こっており、約60ヶ所で行われている。京都においても京都検定が3年連続1万人規模で推移している。約半数の方が全国からお越しになり、観光コンベンションになっている。見る、泊まる、食べるからさらに学ぶ、遊ぶという体感型がさらに拡大していくと思われる。
村木 千之助 株式会社いなとり荘 代表取締役	◆	◆	▼	▲	◆	【国内】ネット系エージェント及び大手旅行業のインターネット販売の動向。
安藤 茂 安比高原 岩手ホテルアンドリゾート 取締役副社長	▲	▲	◆	▲▲	▲▲	【訪日】現状東アジアを中心に宿泊客の増加傾向を続ける市場以外に新規マーケットを創りえるか?円安基調が広がりつつある中、注目したい。
林 文昭 十勝川温泉 第一ホテル 代表取締役社長	◆	▲	▲	◆	◆	【国内】団塊の世代が退職の記念として国内旅行に10%ぐらい高額の料金で旅行をするようになる。
山口 元 株式会社滝の湯ホテル 代表取締役	▼	▲	▲▲	◆	▲	【国内】自社インターネット予約強化。乱立するネットエージェントの今後の動向。
奥村 武久 大和屋本店 代表取締役社長	◆	▲	▲	▲	▲	【国内】都市観光の時代:都市の都会化、ファッショント、グルメ、エンターテイメント、都市の魅力は高まっている。シティホテルに負けない文化力を発揮しなければならない。
布村 俊雄 株式会社第一賓亭留 代表取締役社長	▲	▲▲	▲	▲▲	▲	【国内】ニューシルバーのライフスタイルと余暇消費動向(旅行ニーズの多様化と知的ニーズの複合化)。
豊田 康裕 雲仙・新湯ホテル 代表取締役	◆	◆	◆	▲	▲▲	【国内】①旅行マーケットの牽引者として団塊の世代と老人層。②旅行先選択として、趣味性の広い事柄、土地、建物、芸術、歴史など。③旅行形態として、アニバーサリー旅行の夫婦旅と、年祝いなどの二、三世代家族旅行。
宮元 照武 株式会社ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ 取締役社長	▲	▲▲	▲▲	▲	▲	【訪日旅行】欧州を中心とする第2次日本食ブームの中、為替が円安に流れていることもあり、政府が提唱するビッグジャパンキャンペーンと相まって、訪日外国人が増加すると思われる。
中村 裕 株式会社ロイヤルパークホテル 取締役社長	▲	▲	▲	◆	▲	【訪日】アジア各国より、特に中国。
渡邊 幸一 SPA & RESORT 海栄 RYOKANS 代表	◆	▲	◆	▲	▲	【国内】家族が団塊の世代に親元に年に1~2回集まる。それは実家ではなく旅館。こんな需要を創出できる受け皿造りと情報提供。

(注)* 記号: ▲▲上昇傾向、▲や上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、—回答なし

*コメントの冒頭に【海外】とあるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【訪日】政府が推進する2010年訪日旅行需要1000万人の実現に寄与する為のあらゆる方策。特に中国からの観光ビザ発給地域拡大による需要拡大に期待。	やや大きい	団塊世代の大量退職時代を迎えることにより、海外旅行の増加、特にクオリティの高い高齢夫婦旅行商品需要増。それに伴い、受け入れ施設の高級志向に拍車がかかり、その地域に対しての消費額向上が期待される。
【国内】マスメディアにおける「旅行」の捉え方。	やや大きい	多様な目的を持たれる団塊世代のマーケットが、新しい旅行の要素を創造するであろう(旅行業界が刺激される)
【訪日】国際情勢	あまり大きがない	単なる観光旅行ではなく目標(テーマ)を持った旅行になり目的地が分散されるのではないかと思われる。
【国内】健康、学び、癒し、地産、地消、楽しさ、味の各追求がさらに進む。全てに根っこが見える安心、安全を背景とした企業の動向に注視。	やや大きい	多種多様な旅行スタイルに既存の業態がどのように適応できるかスクラップアンドビルドが進む(変化への適応力が問われる)。存在価値が問われる時代となる。
【国内】広義において自然環境問題と、平和で平穏であること。	やや大きい	世界自然遺産巡りや、歴史、文化を体験する等の、国内の2泊、3泊旅行の拡大。
【全般】訪日旅行で北海道と東北をつなぐツアーが目につく。日本国内に足の便が知られて来たのか、貪欲なのか。テロ、地域紛争など発生しないこと、地震や台風などの転変地異がないことを祈る。一般旅客の心に残ったマイナスのアナウンス効果は簡単には抜けない。	やや大きい	現実に熟年夫婦を束ねたグループツアーが動き始めている。どの媒体なら集まるのか見極め方と思う。
【訪日】ビッグジャパンをはじめとする誘致及びITメディアの拡大により、着実に訪日人数が拡大している。海外で日本の優れた文化(クールジャパン)が見直されている。旅行としての交流文化の拡大を注目している。	かなり大きい	全国的に観光客誘致合戦の中、時間的、金銭的にゆとりのある世代がターゲットになっていくことは確かだと思います。
【国内】旅館業界の二極化(価格、お客様満足度等)に対する今後の動向。	やや大きい	
【国内】最終的には国内旅行の活性化が重要と考える。海外へ向けてのVJCのように国内での新しい動きを創造する取り組みが必要か?	かなり大きい	都市圏を中心に着実に広がりを見せると思います。課題は景況感の上昇。
【国内】懲戒として活発にリニューアルするところが増えてくる。	やや大きい	
【国内】考えられないような激安旅行商品を販売する旅行エージェント。その予約を受ける旅館・ホテル。	ほとんどない	
【国内】景気回復の影響が旅行消費にも現れつつある。業界団体、企業の利用、職場旅行が復活しつつある。日本人の国民性は変わらない面があるのではないか。	あまり大きがない	長期滞在、移住促進が課題とされているが、日本人の国民性からみてあまり期待出来ない。30年前に大別荘地(北海道、大沼公園近く)は造られたが、家は1軒しか建っていない状態である。
【国内】格差の拡大とエネルギー、食料、環境コストの増大。	かなり大きい	滞在(ステイ)ニーズの増加と宿泊施設や地域への対応に対する要求(食、交通アクセス、文化等に対するコンシェルジェ機能)。
【国内】①健康志向、スローフード、無(低)農薬などをテーマとした体験旅行。②美術館めぐりや歴史探訪の旅	やや大きい	全般に比較的高学歴で多趣味、社会経験の豊富な層が自由になる可処分所得をバックにわがままな旅行を組み立てる。食事や音楽、ファッションやインテリアなど多岐にわたりうるさい。マーケットに専門性の高い本物の商品を求める手ごわい消費者が誕生する。この層を満足させるのにサービスの質の向上と施設の整備が不可欠となるだろう。
【国内】実感に乏しかった景気回復も、ボーナスをはじめとする賃金に反映される局面を迎えることで、施設リニューアルの続く温泉旅館(デザイナーズ旅館)への短期旅行が増加するのではないか。東京地区に出揃う国際ブランド高級ホテル(ベニンシュラ、リッツカールトン等)の開業により、ホテルがマスコミに取り上げられる機会が増加し、業界全体が活気づくことも予測される。	かなり大きい	ウイークリーの出発、又は、宿泊旅程が増加し、ホテル等宿泊施設の休前日稼働率との平準化が進むことで、マーケット全体がふくらむと予測される。
【訪日】Visit Japan Campaign	かなり大きい	国内旅行
【全般】団塊の世代の定年期がスタートすることに伴う、旅行形態、広くは消費行動の変化。	かなり大きい	かなり大きな影響が出るとは思うが、それは需要創出の努力によると思われる。放置すれば、他の消費行動に移ってしまい、旅行マーケットの成長にはつながらない。十人百色の時代、ニーズを先読みしながら多くの選択肢を用意せざるを得ない。

有識者に聞く2007年旅行マーケット動向見通し 宿泊産業(3)

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット／トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内 旅行	海外 旅行	訪日 旅行	
小林 哲也 帝国ホテル 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【国内】定年退職を捉えた団塊世代。退職を家族で祝う宿泊プランはコンスタントに実績がある。今後はアクティブに活動する熟年世代に対して、様々な「場」を提供することがシティホテルとしての役割と考える。
河内 孝善 湯の川プリンスホテル 渚亭 常務取締役	◆	◆	▼	▲	▲	【全般】世の中が効率化、文明化をより進めていく中で、プライベートな時間に対する逆ベクトルのスローライフ文化に対しての学びなどを強く志向する人が増えている。歴史があり、質感のある街や大自然を求めてという旅行は堅調に推移するのではないか。
野口 秀夫 野口観光株 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲▲	▲▲▲	【国内】旅行形態の個人化がどこまで進み、価格下げ止まりがどこまで進み、二極化がどこまで進み、インターネット販売がどこまで進むか。すなわち新しい旅行業界のビジネスモデルをどのように創り出すか。
二階堂 晋一 株サンルート 代表取締役社長	▲▲	▲	▲	▲	▲▲	【国内】熟年層や女性の一人旅の地方都市周辺の観光。
小田 孝信 株加賀屋 代表取締役社長	◆	▲	◆	▲	▲	【訪日】特に台湾等、ビザなしでの訪日が可能な国からの旅行者。
山澤 倶和 株阪急ホテルマネジメント 代表取締役社長	▲	▲	-	▲	▲	【国内】今年は長期休暇における旅行予定先として大多数が国内を挙げているという報道があり、昨年と比較しても全ての条件において「安」「近」「短」の傾向がより高まったとの報告もある。来年は、この傾向に歟止めがかかるか、または、この傾向が強まるのか見守っている。

(注)* 記号: ▲▲上昇傾向、▲やや上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、—回答なし

*コメントの冒頭に【海外】とあるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【国内】【訪日】都心の新規ホテル開業。東京の都市としての魅力が増し、注目度が高まることは業界として歓迎すべきこと。	かなり大きい	定年退職を祝う記念日利用の需要。さらに、時間に余裕が生まれた団塊世代がオフシーズンや平日の利用を喚起する。
【全般】団塊の世代が定年退職を迎えた際の、自由時間の過ごし方と女性の社会進出が増えていく中で、働く独身女性の休日の過ごし方。業界動向としては異業種の宿泊業への参入。	やや大きい	マーケットとしては大きいと考えるが、「こだわり」の強い世代でもあり、目的や質への志向が高いと思われるの、ひとつの形態の旅行にどっと集まるとは考えにくく、多品種のメニューを用意することにより、徐々に旅行者数が増えていくのでは?
【全般】生活負担増による旅行意欲の低下を心配しております。	非常に大きい	質の向上と差別化に多大の影響を与える。根本的に発想を変えなければならない。運営ばかりではなく、経営に影響あり。
【国内】地方自治体が推進している都市観光や産業観光の活性化。特に東京都が取り組んでいる有明やお台場の推進策。	かなり大きい	ビジネスホテルを利用した熟年層や女性の一人旅の観光性旅行が多くなる。特に、価格訴求力のある週末宿泊需要が拡大する。
【国内】団塊世代の動向。定年がのがびた事により、影響度は当初よりは下回ると考えるがグロスとして大きい。	やや大きい	国内旅行の増大に期待。消費的にも高い世代にあり、リタイア後も傾向は変わらないと思われ、高額、時間消費型の商品のシェア拡大が予想される。
【全般】旅行情報の収集には、大多数がインターネットを活用しているが、今後インターネットを制するのは旅行代理店か、それとも直接予約か、それとも新しい事業者の参入があるのか注視している。	やや大きい	一旦リタイアしたとしても、継続雇用や再就職もあり、貢献度合いとしては緩慢な上昇は期待できそう。

有識者に聞く2007年旅行マーケットの見通し 運輸業

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット／トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内旅行	海外旅行	訪日旅行	
顧 洪彬 中国国際航空 東京支店 支店長	▲▲	▲	▲	▲	▲▲	【訪日】「VJC」の広がりでもっと多くの外国人が日本を訪問すると思います。特に中国からの部分については、来年は中日国交回復35周年、さらに、中日文化スポーツ交流年に当たりますので、たくさんの中国人客が訪日することが期待できます。
陳 晓 中国東方航空日本支社 支社長	▲	▲	▲	▲	▲	【海外】
荻野 雅史 カンタス航空 日本支社長	◆	◆	▲	▼	▲	【海外】ロングステイ。かつての様な「移住」のニュアンスではなく、日本に拠点を置きながら、海外・国内の旅先で非日常を楽しみつつ、物価の安さなどを活用することで、資産の目減り防止・財産の保全を図るリタイア層の増加が今後見込まれる。旅先に滞在する家族や友人を訪ねる需要も付随していくことから、急速な成長は見込めないものの、最終的には大きなマーケットになると予測する。これにより、パッケージや団体旅行ではない海外渡航者の比率も高まる。また、二極化が進む中で、富裕層にはますますクルーズ等の商品が浸透する。
Charles Duncan コンチネンタル航空 日本支社長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【海外】これまで海外旅行の中心となってきたパッケージ旅行の利用から、旅行者がそれぞれの希望する内容の行程を組むスタイルの旅行が徐々に増えていると思います。
マーク F シュワブ ユナイテッド航空 太平洋地区副社長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【海外】「クルーズ、Fly&Driveの2分野の堅実な成長が見込まれます。
松井 茂夫 日本アジア航空(株) 代表取締役社長	▲	▲	-	▲	▲	【海外】団体行動型旅行より、個人による自由型旅行の需要が増加するとと思われる。加えて、台湾国内新幹線の開通に伴う利便性の向上が旅行者数の増加を促進すると思われる。
塩見 修 宮崎交通(株) 代表取締役社長	▲▲	▲	▲	▲	▲	【訪日】県及び外航による九州及び宮崎地区への新規定期航空路開設の動き・チャーター計画の動きが見られる。新規路線として台湾を注視ていきたい。
饗場 義晃 東京空港交通(株) 代表取締役社長	▲	▲▲	▲	▲▲	▲	【全般】個性的個人旅行が中心になると思います。ほんの少しだけ贅沢な、値頃感のあるものが求められます。
神原 昭夫 (株)駅レンタカーシステム 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【全般】インバウンド市場(特にアジア発)における「FIT化傾向」が強まり、こだわりのある(SIT的な)旅行への関心が高まる。それに平行して、海外旅行慣れした日本人客の要求レベルも上昇中のため、これらの動向に呼応して国内受入態勢(泊食分離、インターネット予約、クレジットカードによる予約保障、他)や新サービス提供などに挑戦する新しい動きが強まっていくと考えられる。
松島 裕彦 四国旅客鉄道(株) 取締役営業部長	▲	▲	▲	◆	◆	【国内】個人型旅行、滞在型旅行、体験型旅行への動きが一層強まる。
上原 雅人 (株)日本航空インターナショナル 取締役 旅客営業本部長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【訪日】好調な東アジアからの訪日需要については廉価な商品だけでなく、日本国内線網を利用した首都圏以外への旅行商品拡大によるリピーターの確保。また、欧米豪においては、豪州からのスキー需要等、マーケットニーズにあった商品(主にFIT)、及び、販路拡大に向けた異業種タイアップ強化による日本行商品拡大に期待。
松尾 均 (株)はとバス 代表取締役社長	▲	▲	◆	▲	▲	【国内】近隣地を目的とするバス旅の動向(中高齢者の旅行スタイルとして拡大していくかどうか)。* 魅力的なバス旅の商品開発に一層努力する必要あり。
滝澤 進 北海道国際航空(エア・ドゥ) 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【国内】団体旅行から個人旅行への流れがどのように進んでいくか。
糸田 佳幸 京都ヤサカ観光バス(株) 取締役社長	▲▲	▲	◆	▲	▲▲	【国内】減少傾向にあった職場旅行が従来と違った形態ではあるが復活の兆しが出てきたこと。
平尾 一彌 北海道中央バス(株) 代表取締役社長	▲	▲	◆	▲	▲	【国内】北海道観光の今後について(国内、海外の来道客の動向)。

(注)* 記号: ▲▲上昇傾向、▲やや上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、—回答なし

*コメントの冒頭に【海外】となるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【海外】円安がさらに進んだら海外旅行に何らかの影響があると思います。	やや大きい	団塊世代のリタイアは、今後の旅行市場の質的な発展にも寄与するものと思います。
【海外】	非常に大きい	
【海外】短期的には為替(円安)影響を大きく受けることになる。円安を受けて今後ますます海外旅行市場から国内旅行市場へのシフトが予想される。海外旅行市場は成熟し、時間・資金を有効にますます海外旅行市場に限定せずに国内旅行先も視野に入れて旅行先を選定する様になり、リピーターを育成しきれない海外渡航先は今後ますますその商品に工夫が必要とされる。また、長期的には少子高齢化が大きく影響する。新たな需要の造成が難しいばかりでなく、介護を必要とする高齢者、介護をする必要のある層の旅行離れがあるかもしれません。	やや大きい	老後の不安もあって、団塊世代がすぐにすべてリタイアするとは考えにくい。従って、07年の時点で大きな潮流が起こるとは思えないが、問3で述べた様な、質的な発展には大きく寄与すると思われる。
【海外】ハッピーマンデーも大分定着し、2007年の祝日の日並びも良いので海外旅行の需要象につながるのではないかと思われます。	やや大きい	2007年に入りすぐには影響が出てくるとは思いませんが、徐々にマーケットに影響を与えるセグメントがこれまでOL等若い女性が中心だったものが、シニア層に移り、それに伴い企画や商品(ロングステイ、文化的テーマ、オプション等)が増えてくると思います。
【海外】原油価格の動向。価格がもう少し低いレベルで安定することが、かなりのプラス要因になるであろうと思われます。	かなり大きい	旅行先、旅行形態がより多様化してくると思われます。
【訪日】各航空会社のチャーター便を含む運行計画。日本発の旅行者もさることながら、台湾発旅行者数。旅行単価に大きく影響する。	かなり大きい	マーケット全般の旅行商品の日常化に加えて、リタイア後の海外旅行の増加が考えられる。合わせて長期滞在型旅行も増えると予想される。
【国内】6月、7月に知事選及び参院選の実施による旅行動向の鈍化が予想される。	かなり大きい	海外旅行が年数回にわたり実施される予想。又、団体旅行より個人手配旅行へ特化への動き。国内旅行においてはマイカーを使いエコツアー、登山(百名山)、88ヶ所巡りと個人旅行に特化されると思われる。
【全般】いわゆる団塊の世代が大挙して自由人になります。経済的にも豊かなこの人々は、必ず非日常的な体験を求めて内外の旅行に目を向けてくるでしょう。	かなり大きい	質の良いもの、価値感のある、少しだけ贅沢な個性的な旅行が求められると思います。
【海外】団塊世代のリタイア夫婦及び中年女性グループが主体となり、自由で個性的なレジャー活動が多方面で全面開花する。特に旅行分野で多彩な話題が広がり、マスマディアも注目する社会現象となることが予想される。(さらに数年後には、本格的な国際交流が広がる気配が感じられる。)	かなり大きい	①国内旅行、海外旅行ともに量的な伸長が著しくなる。②旅行の時期、目的、形態などの個性化が一段と進み、全体として旅行が大幅に多様化する。
【国内】団塊世代が大量退職時代を迎えること。	やや大きい	旅行の高単価化への動き(高級志向)。
【海外】中国方面。2008年開催の北京オリンピックに向けて、注目度が増す中、各業界の取り組みや報道によるマーケット牽引に期待。又、日中関係も大きく需要動向を左右することから注視する必要あり。	非常に大きい	高付加価値商品、ロングステイ等、商品の多様化が進むと思われる。
【国内】団塊世代のリタイア後の動き。景気動向と可処分所得の動き。環境、安心、健康に対する意識の動き。	やや大きい	旅行経験豊富な世代であり、商品の選択には厳しい目を持っている。高価でも満足できる商品から動きが出ており、その流れは一層強まりながら、全体として分化しながら拡大すると思われる。
【国内】①地域として一体となった魅力づくりについての取り組みがどのように進んでいくか。②ITを活用しての予約や情報提供がどのように進んでいくか。	かなり大きい	リタイアを記念しての夫婦連れの大型旅行が増加する。
【訪日】ビジットジャパンキャンペーンにおいて、2010年までに訪日外人客1000万人の目標達成に向けて大変重要な年であり、更に官民一体となった受入体制の強化が求められる。	やや大きい	退職に伴う記念旅行はニーズとして期待できるが、国の社会保障等の切り捨てによる老後の不安感から貯蓄が優先し、一部階級を除きリピーター化は期待できないと感じる。
【国内】団塊世代の動向、国内の景気動向。	やや大きい	60歳以降の定年延長もあり、数年を経て持続的に影響が出てくるものかと思う。

有識者に聞く2007年旅行マーケットの見通し 旅行業(1)

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット／トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内 旅行	海外 旅行	訪日 旅行	
古木 康太郎 (株)グローバルユースビューロー 代表取締役副社長	▲	▲	-	▲	-	【海外】シニア層を中心に海外旅行の増加は期待できるが、従来までの旅行形態とは違い、その訪れる国を企画性によって価値を高める旅となることで増加が見込めると思う。個人旅行より企画旅行へ魅力が高まらなければ旅行商品としての問題が残る。
実光 進 (株)パシフィックツアーシステムズ 代表取締役社長	▲	◆	◆	◆	▲	【海外】中国への旅行。団塊世代の中国史への強い関心、豊かな歴史遺産・雄大な自然遺産、中国経済の成長、政治面での関係改善、航空路線の拡大、フレオリンピックなど需要拡大を促す要素が豊富。
岡本 邦夫 クラブツーリズム(株) 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【全般】団塊世代の動向
田中 道生 郵船トラベル(株) 代表取締役社長	▲	◆	▲	◆	▲	【海外】①中高年層を意識した高品質でブランド価値が高められたテーマ性を持つ商品。②海外旅行の年齢構成比率の低下が大きい若年層を掘り起こす商品。
村井 哲夫 エーペックス・インターナショナル(株) 代表取締役	▲	▲	-	▲	-	【海外】団塊世代
金井 耕 (株)日本旅行 代表取締役社長	▲	▲	◆	▲	▲▲	【全般】ダイナミックパッケージに代表される個人の自由型旅行と旅行業ならではの内容の充実したコンサルティング型の旅行の二極分化が進む。「世界遺産の旅」のようなエコツアーや「ウォーキングツアーア」等の健康開拓ツアーノ、ツアーオの目的が明確な商品が消費者の指示を拡大する。
山本 信 (株)JTB北海道 経営企画担当課長	▼	◆	◆	▼	▲	【全般】北海道発、受け入れ、国際インバウンド共にお客様動向はより多様化し、グループにおいても少ロットで多商品化が進むと考えられます。FIT化、又は専門性のある旅行に正対した対応が急務である。
石川 拙己 (株)JTB首都圏 代表取締役社長	▲	◆	◆	◆	▲	【海外】中国旅行。ついに眠れる獅子が目覚める。日本から近く、様々な世界遺産、都市、食など魅力に富んだ行く先として急成長しそうである。
岩穴口 一夫 (株)JTB大阪 代表取締役社長	◆	◆	◆	▲	▲▲	【全般】熟年層への多様なニーズに対応できる商品の品揃えと提案力(パッケージ添乗員つき・パーソナル・FIT、クルーズ、ロングステイ、語学研修等)。
五十嵐 力 (株)JTB中国 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【海外】広大な中国において、今まで人気のある美しい九寨溝・麗江等に続く次のデスティネーション紹介。
水嶋 修三 (株)JTB九州 代表取締役社長	▲	◆	◆	▲	▲	【訪日】シンガポールからの教育旅行、台湾・韓国からの富裕層の個人旅行、中国華南地区からの訪日需要の増大が見込まれ、インバウンド受注体制をいかに構築するかが各旅行社の課題。
茂原 史則 (株)JTBトランブンド 代表取締役社長	▲	▲	◆	▲	▲	【海外】団塊の世代を含む熟年層の動きが引き続き活発であり、ヨーロッパに注目。
田島 幸郎 (株)JTBグランドツアーア&サービス 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【海外】海外旅行経験の増加に伴い、FITがさらに進んでパッケージでした訪問できない方面(またはパッケージ利用の方が便利な方面)の希望者増による新たなパッケージ需要の増加に注目。方面としては中南米やアフリカ・中近東など。
矢島 勝美 (株)アールアンドシーツアーズ 代表取締役社長	◆	◆	◆	▼	▲	【海外】インターネットによる予約形態の変化がマーケットを大きく左右する。中国旅行市場の拡大。
田辺 豊 (株)農協観光 代表取締役社長	◆	◆	▼	▲	▲	【海外】団塊世代から60代の中・長期滞在先としての中国を含めたアジア。受け対制整備に課題は残るもの需要増は期待できる。
土井 誠 (株)読売旅行 代表取締役社長	◆	◆	◆	▲	▲	【国内】募集型企画旅行の集客力と個人志向が強まりつつあるとされる顧客ニーズの今後の動向、及び、ネット産業の展開。
吉成 佳夫 (株)トラベルプラザインターナショナル 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【海外】海外FIT化の流れと、インターネット販売におけるその比重、ダイナミックパッケージング化の実現状況。
鈴木 芳夫 (株)エイチ・アイ・エス 代表取締役社長	▲	◆	◆	▲	▲	【海外】自由旅行型の旅行スタイルの浸透と団塊世代の旅行者増によるフルパッケージの二極化が一時的に広がる可能性があるのでは。また、今まで以上に目的指向の強い旅行ニーズが高まり、カウンターでの営業力と商品企画力が一層重要となる。

(注)*記号: ▲▲上昇傾向、▲やや上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、-回答なし

*コメントの冒頭に【海外】とあるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【全般】不安要因の最大はテロによる心理不安である。日本の経済もデフレからの脱却も考えられ、安定した経済状況になりつつあり、2007年はより期待ができる。	非常に大きい	60歳定年となるが実際には65歳まで働く人口はこれまで以上に多くなると思う。しかし、シニア層の旅に関する興味は高く、これまでと違った生活になればややシニアの旅は増加する。
【全般】航空運賃の動向。燃油サーチャージの高止まりと航空運賃の値上げ傾向、コミッショニングカットとコミッショニングギャップ、競争の少ない国際線とJALの経営不振など不安要素が多い。	やや大きい	リタイア後の生活不安、レジャーよりも健康維持、管理を優先、雇用の延長等による継続就労等「無駄使いをしないで長生き」という価値観が主流になるとされる。
【全般】夫婦の生き方に注目	かなり大きい	07年に直ちに影響が出るとは思えないが、今後の旅行形態を質的に変化させていくと思います。
【海外】①国際航空券の手数料減率や当日限定のVOID処理が与える利益の低下。②夏に実施される参議院選挙とその後の政局に左右される株価や為替市場。	あまり大きい	旅行希望者は多いものの、定年後の資産は、投資や貯蓄に回されるのが実態であろう。従って、団塊世代の享受は限定的であり、旅行業界全体に貢献するとは考えにくい。
【海外】「鳥インフルエンザ」、人から人への感染。	やや大きい	
【海外】現有価格動向、2007年の原油価格は低下安定傾向にあると予測するが、燃油チャージ等、海外旅行客の足かせとなっているものがどこまで軽減されるか、航空会社のVOIDボリシー、コミッショニングカットの動向も注視したい。	やや大きい	「世界遺産」や「健康維持」等のテーマ性を持った旅行が同世代の支持を受けて大きく拡大する。団塊世代の核として三世代旅行が増加し、旅行1件あたりの販売額が拡大する。ビジネス商品やクルーズ等高級商品への需要が高まる。但しこの世代のニーズは多様化、細分化されており、これに対応するには相当の企業努力が必要となる。
【全般】各地域の体力は弱ってきており、特に北海道は顕著に表れている。より地域に密着し、地域有力者と連携を組み、信頼を築き上げて行くことが発地着地の営業を支えることになる。ビジネススタイルを変えることを注視している。	やや大きい	団塊世代の行動動向は、いままでのスタイルからは変化していると感じる。時間感覚、お金の利用方法まですべてにおいて余裕感が大きくなり、旅行における長時間(ロングステイ)や専門性を求める、自由度と深さをクリアできる商品化を目指したい。
【国内】これまでの航空会社・JRなどキャリア対旅行会社の事前調和的な関係が音を立て崩れていく始まりの年になるのではないか。これからは、仕入れも販売も一律的・定期的なものが退潮し、優勝劣敗の原理が支配してくれと見ます。	かなり大きい	年金受給まで4~5年を残し、大方の団塊世代はまだ働かなければなりません。団塊の大旅行時代は'07年から始まるが、本格化は2011年ぐらいからでしょう。
【全般】インターネット販売の拡大(含むダイナミックパッケージの本格化)による店頭販売への影響。	やや大きい	団塊世代へ向けてあらゆる業種からのアプローチが増加する。旅行会社として多様なお客様ニーズへの商品提案と共に他業種とのアライアンスの必要性を感じる。
【全般】日中関係正常化が定着していくか否か。政治・文化交流とは一味違う教育・文化・スポーツ等の日中交流を加速させたい。	やや大きい	地域の小サークル・同好会による旅行需要が拡大する。日帰り・一泊程度の国内旅行にインパクトをもたらす。
【全般】インターネット宿泊販売・国内外ダイナミックパッケージ販売サイトの増加に伴う既存旅行業者への影響や、国際航空券販売手数料の低下による海外エアオン販売業者への影響等、從来型旅行業者への逆風。	やや大きい	退職者増加初年度として間違いない「退職記念旅行」需要の増大が予想され、国内では世界遺産のある知床や屋久島、海外では中国やヨーロッパ等、歴史を体験出来る方面的旅行ニーズが増えると予想。
【全般】経済環境の好転に伴い、「質の高い旅行、こだわりの旅行」への志向が強まる。国内では「温泉らしい温泉」、海外では歴史、文化の香りの高いヨーロッパ、中国への旅行が増加すると思われる。	かなり大きい	旅行全般に大きく影響すると思われる。業界としては、的確な商品・情報の提供に力を入れる必要がある。
【海外】07年から始まる団塊世代のリタイア。単なる高額商品ではない、マーケットニーズを的確に捉えた商品のみの需要が高まる。	かなり大きい	リタイア本格化初年度の07年は、消費者の「旅行をはじめとした支出先の選別」がはじまる。そのため、人口規模とは異なり先ずは徐々に影響が出て始める。的確にニーズを捉えた商品の需要のみが高まると考える。
【海外】原油価格変動による燃油サーチャージの動向。ビーチリゾート便供給不安定による旅行需要への影響。	あまり大きい	団塊世代がリタイアしても将来の人生設計からいと希望があまり持てない社会環境にあり、せいぜい1週間程度の近場のマーケット又は中国市場が注目をあびる程度と予想します。
【国内】国内旅行の活性化に向け、グリーンツーリズムの受入れ体制が整備され、旅行業とリンク出来れば期待出来る。	かなり大きい	旅行業界が団塊世代のニーズに応える事が出来れば、拡大に繋がると考える。
【全般】①過度の価格競争がもたらした弊害と低迷からいかに旅行業界が脱出出来るか。②顧客心理を冷え込ませるテロやサリン事件などの重大事件の発生、SARSなどの健康被害の続発、不用意な政治発言や行動が大きな影響を与える。	かなり大きい	団塊世代の人たちが、どのような志向をしていくのか、依然として旅行業界が確信を持ってない状況だけに、その動向は将来にかけて影響が出てくると思う。
【海外】中国への投資が減少しつつある中での中国ビジネスの行方。	かなり大きい	退職記念旅行は増えるであろうが、各々のライフスタイルにあわせた個性的な旅行は07年には、それ程はっきりとは出でこない。業界に影響を与えるような拡大及び質の変化は少し時間をかけて、徐々に大きな流れを作っていくものと考える。
【海外】中国の影響が確実に大きくなっている。法人需要とフルパッケージだけでなく、幅広い商品企画力と提案力がますます重要となる。	やや大きい	旅行好きな団塊世代は既に動き出している。07年以降はそれ以外の方々にどこまで興味を持っていただき、リピートしていただけるかがポイント。そのポテンシャルは高い。

有識者に聞く2007年旅行マーケットの見通し 旅行業(2)

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット／トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内旅行	海外旅行	訪日旅行	
吉田 修 (株)ジェイアール東海ツアーズ 取締役社長	▲	▲	▲	▲▲	◆	【国内】京都・奈良に代表される日本の良さ、歴史の重みなどを学び肌で感じる観光スタイルが着実に増えていくと思う。
影嶋 雅昭 (株)ミキ・ツーリスト 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【海外】2007年は海外旅行の少人数化、個人旅行化が加速する。
松井 政明 (株)JTB関東 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲▲	▲▲	【全般】中国での旅行需要の高まりや経済発展、日本全体でのビジットジャパンキャンペーンへの取り組みからなる訪日旅行者数の増加や日中間の双方向の旅行者数の増加が注目される。また、日本人メジャーリーガーの増加による、北米への旅行需要の増加も気になるところ。
阿部 義博 (株)JTB中部 代表取締役社長	▲	▲	▲	◆	▲	【海外】団塊世代の動向(支持される商品)
諸江 寿 (株)JTB中国 代表取締役社長	▲	◆	◆	◆	▲	【全般】高額商品の販売。緩やかに景気も上昇しており、商品価値があれが高額でも購入されるお客様層が増加すると推測する。
秦 一男 (株)JTB中国四国 代表取締役社長	▲	▲	◆	▲	▲	【全般】団塊世代のリタイアが始まり、その層の旅行者は確実に増える。そして、クルーズやこだわりのある高額商品と日帰り旅行等の廉価商品の二極化がさらに拡大する。
砂原 泉 (株)JTBアジアツーリスト 常務取締役	▲▲	▲	▲▲	▲▲	▲	【訪日】観光立国推進基本法の成立で、VJCは一段と拍車が掛かると思われるが、日中国交正常化35周年事業程度しか大型イベントがない中、個人化現象が一段と進むものと思われ、特にB2Cがより活性化するものと思われる。
伊藤 正人 (株)ワールドバケーションズ 代表取締役社長	◆	◆	▲	◆	▲	【海外】インターネットによるダイナミックパッケージ販売の展開。エキスペディアの進出など、ダイナミックパッケージが本格展開されるが、日本マーケットでどれだけ浸透するか注目したい。
金子 明義 (株)ジェイティービーサンアンドサン 代表取締役社長	▲	◆	◆	◆	▲▲	【国内】中流意識以上者の意欲をくすぐる企画商品を開発できるか。

(注)* 記号: ▲▲上昇傾向、▲やや上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、—回答なし

*コメントの冒頭に【海外】とあるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【国内】(業界動向)旅館・ホテルと旅行会社の協力関係。	かなり大きい	規模的には、直ちに大きな影響は出てこないと思われるが、旅行内容に対する選択眼の厳しいお客様が、着実に増えていくものと思われる。
【海外】日本経済の順調な景気回復と円高への転換。	やや大きい	07年は08年以降の対策を講ずるため団塊世代が旅行マーケットに与える傾向を見極める年と考えている。
【全般】ネット社会の拡大による消費行動の変化に伴う、旅行商品のインターネット販売の増加に対応して、既存旅行業の今後の動向やマーケットの変化が注目される。	非常に大きい	団塊世代のリタイアと合わせ、経済環境の好転やニホン化の進行、平均寿命の伸びも加わり、規模的な拡大もされることながら、クルーズ商品や高級商品をはじめとした質的発展にも大いに貢献すると思われる。一方、個々人のニーズの多様化に対応した取り組みも重要であると思われる。
【海外】アメリカ経済と為替(ものづくりの強味が外需に依存しているため)。	やや大きい	団塊世代の上流層意識のある方のウォンツに応える新たな企画提案の競争。
【国内】インターネット販売の継続。国内単品において、インターネット販売が更に拡大すると推測されるが、このような環境下、専門性・人材育成をキーワードとして対抗していくことが急務と感じている。	やや大きい	影響というよりも、団塊世代のニーズにあった商品を、有効な手法でアプローチして、営業拡大に繋げていかなければならぬと考える。
【海外】キャリアのリゾート路線からの撤退が増え、チャーター戦略が重要となってくる。特に地域においては重要である。	やや大きい	規模的な拡大にはなっても質的発展にはもう少し時間がかかるのではないか。メディア型商品、ネット商品がさらに拡大すると予想する。
【訪日】景気回復と金利上昇が予測されるが、運悪くドル安円高と重なった場合、久し振りに単価アップを目指している。都市型ホテルの宿泊料とあいまって、「胸つきハリ」に悪影響を及ぼさないか不安である。	かなり大きい	①クルーズのボピュラー化が進む。②海外駐在経験者が中心となって個人旅行化やオフザビートトラック地区への旅行が目立つ事となり、旅行業界全体の知識の高度化が求められる。
【全般】景気影響面から円安に懸命。対ユーロ、米ドルに対する極度な円安は旅行代金に影響を与えるのは勿論のこと、その反動局面には景気に与える影響は大きい。旅行販売の成否は何よりも一般消費による要因が大きいため。	やや大きい	団塊世代のリタイアにより熟年層の多様化が進む。キーワードは個人化、IT化。その反面、趣味、地域でのグループ化、コンサルティング、対面化も並行して進むと考えられる。07年にはすぐには影響はないが、構えは準備する必要があるだろう。
【国内】カレンダーの曜日配列効果(三連休、秋休み定着化等)。	かなり大きい	夫婦記念旅行はリタイア組の最優先イベント。更に、20~30年前の自分史追体験の旅、クラス会旅行、ひとり旅等、個性的な旅が浮上するはず。

有識者に聞く2007年旅行マーケットの見通し 観光施設・観光関連団体・有識者等(1)

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット／トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内 旅行	海外 旅行	訪日 旅行	
井上 嘉世子 TIA 全米旅行産業協会 日本代表	▲	◆	◆	▲	▲	【海外】自分自身が担当しているアメリカへの旅行について、ここ数年FIT化が進んでおり、その傾向はますます強くなっていくのではないかと思う。シニア・マーケットへの取組みとして、多少価格が高くてもフルパッケージになったものを売り出してもどうか。FITでは「せまく深い」観光地訪問になってしまいがち。特に国立公園巡り等「広く深い」旅を提案したい。
陳 淑華 台湾観光協会 東京事務所 副所長	▲	▲	▲▲	▲	◆	【全般】団塊世代のリタイア等のスタートに伴い、欧州や秘境等長期間の旅行商品に人気が集まるのではないかと思う。国内の場合においても温泉連泊など、時間のゆとりを求める旅が流行するのではないかと思われる。
清水 信夫 社団法人全日本シティホテル連盟 会長	▲	▲	◆	▲	▲	【訪日】中国人旅行客の更なる増大。
溝尾 良隆 立教大学観光学部 教授	▲	▲	▲	▲	▲	【海外】【訪日】中国への旅行者が増大する。中国からの旅行者がさらに増ええる。
岡本 伸之 立教大学 観光学部 教授	▲	▲	▲	▲▲	▲▲	【国内】ヘルスツーリズムのマーケットに注目している。それもメタボリック症候群への対応のような治療の段階から精神と肉体の両面において、より健康になろうとするいわゆるウエルネスを含む幅広い領域で健康志向が強まるように思う。
小磈 修二 釧路公立大学 地域経済研究センター 教授、センター長	◆	▲	◆	▲	▲	【国内】地域の地場食材を活用した料理を楽しむこと、地域の人々の生活に触れ合い、交流の機会を持つことなど、それぞれの地域の風土を肌で感じる旅のスタイルに关心が高まると思われる。
藤原 勇二 IATA 国際航空運送協会 代理店公認審査マネージャー	▲	▲	▲▲	▲	◆	【海外】WEBセールスによる勝ち・負けが進んでいる。Biz Modelを今後、日本市場でどう展開していくか注視したい。またDynamic Packageにも注目している。
大澤 昌彦 リゾート事業組合 専務理事	▲	▲	◆	▲	▲	【全般】団塊世代を中心とした旅行意欲は既に大きなうねりとなって市場を動かし始めているが、この世代は生活体験から量より質にウエイトを置いており、運営サイドとしては「ゆとり」と「こだわり」がキーワードとなる。
大久保 靖彦 蔵王ロープウェイ(株) 取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【国内】物の価値見聞の旅から、知識の修得を主とした心の豊かさを求める旅への転換が更に進行する。(物価→知価)同時に着地としての地域間競争が益々激化すると思料される。
坂口 正行 チボリ・ジャパン(株) 取締役社長	▲	▲	▲	▲▲	▲▲	【訪日】中国からのインバウンド旅行者の増加。
小泉 孝範 (株)富士急ハイランド 取締役社長	▲▲	▲▲	▲▲	▲▲	▲▲	【訪日】アジア諸国の経済発展や富士山の世界遺産登録によるインバウンド旅行客の増加。
布留川 信行 株横浜八景島 取締役社長	▲	▲	◆	▲	▲▲	【訪日】アジアを中心としたインバウンドマーケットは今後も拡大していくと思われる。今後も官民一体となったプロモーションを実施すると共に、自社としてのセールス活動も強化していきたい。
二宮 大輔 株リクルート 海外旅行推進室 推進室長	◆	—	—	◆	—	【海外】マイレージへの加算を含むポイントサービスの行方。クレジットカード決済機能や電子マネーの普及と会わせ、旅行商品選択において意外と大きな影響力を持ちそう。
森 健太郎 株リクルート じゃらん関東版 副編集長	▲▲	▲	▲	◆	▲▲	【国内】シニア男性の旅行者数増加。「じゃらん宿泊旅行調査2006」によると前年に比べシニア男性の宿泊旅行者数が約510万人も増加しており、顕著な動きとなっている。この傾向は07年にかけても継続するものと思われる。
榎原 史博 (株)マイルポスト 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【海外】ハワイ、中国、オーストラリアなど、伸び悩む伝統的な主要デスティネーションの活性化に注目。
江口 恒明 株観光経済新聞社 代表取締役社長	◆	◆	◆	▲	▲	【国内】安値競争の激化が続き、いまなお名だたる宿の倒産・民事再生が相次いでいる。民間感覚で景気の上向きを感じ始めてはいるが、消費動向の変化で国内旅行は活力を欠いている。
横溝 博 株レジャー産業研究所 代表取締役	▼	▲▲	▲	▲	▲▲	【国内】中高年層、団塊世代など比較的時間が自由な人達。
中村 稔 独立行政法人 国際観光振興機構 理事長	▲	▲	—	◆	▲	【訪日】①中国のインバウンド、アウトバウンド動向(中国からの旅行者数、中国人海外旅行者数)。②中国インバウンド及びアウトバウンドによる訪日旅行市場への影響。③ロシア人、インド人の外国旅行動向及び訪日旅行動向。

(注)*記号: ▲▲上昇傾向、▲やや上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、—回答なし

*コメントの冒頭に【海外】とあるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【海外】若年層にみられる海外旅行離れが気になる。今後絶対に取り組まなければならないマーケットにどう海外旅行の良さ、楽しさを浸透させていくべきなのか。	非常に大きい	海外旅行者数の増加。とはいっても飛躍的なのにはならないのではないか。
【海外】鳥インフルエンザの拡大。同様に感染病などの発生による旅行控えや政情不安による旅行控えが心配。	やや大きい	問3をご参照下さい。
【訪日】中国との良好な政治関係	あまり大きくない	リタイアしても総体的にパイの大きさは変らず、旅行マーケットの成長には大きな変化はないと思う。
【国内】【海外】消費税のアップや高齢者福祉の費用負担増がマイナスの影響を与える(注)上記のマイナス成長の意味ではない。	かなり大きい	平日の国内旅行と海外旅行の増大
【国内】健康保険制度の維持が財政的に困難になる中で、病気の予防に対して今後健康保険組合がどのように取り組むのか、そうした取り組みと観光との関連に注目したい。	非常に大きい	自由に裁量可能な時間と所得に恵まれるため、これまでの見て楽しむ類いの受動的な観光からさらなる成長や変身の契機となるような各種能動的な観光の担い手となろう。
【国内】地域独自の知恵と工夫で取り組んでいる「魅力あるまちづくり」が観光訪問者の関心を呼んでいる。Ex.高山市がコンバクトシティを目指して取り組んでいるライトレール。帯広市の民間人が中心部空洞化対策として取り組んだ「北の屋台」など。	やや大きい	ゆとりある滞在型ツアーへの志向が高まることから、国内旅行よりも海外旅行の長期滞在型ツアーが伸びるように思われる。
【国内】産業再生機構あるいは外資系金融機関がBiz Modelを変更しながら企業再生をしている。宿泊施設の行方が国内旅行に対する安心感を醸成すると思われる。	かなり大きい	かつてのシルバーマーケット向け商品(all inclusive)の見直しが迫れる。
【全般】わが国経済はいざなぎ景気を超えたもののその勢いは弱く、また地域、階層の二極分化は益々進む思われる。外貨の買越しもあって上昇基調にあった株式市場の動向によっては、利用者の旅行熱にブレーキがかかる事が懸念される。	やや大きい	既にこれらの団塊世代は動き始めていると、定年とリタイアは必ずしも同一ではないため、全体としては強含みで推移するが大きな影響が出てくるとは思われない。
【訪日】国策であるビッグジャパンキャンペーンの効果が期待出来る。蔵王温泉として、山形県、山形市と連携を密にして、誘客活動と、ソフト、ハード両面で受け入れ態勢の整備を積極的に展開する。	かなり大きい	団塊世代のリタイア初年度として、夫婦旅行はもとより、三世代旅行の拡大等、旅行マーケットへの影響は大きい。
【訪日】ビッグジャパンキャンペーンを更に力強く展開してゆき、訪日旅行者数の1000万人突破を急ぐ。	かなり大きい	夫婦だけの旅行の増加(若い頃訪れたところを再訪するセンチメンタルジャーニー)
【国内】団塊世代のリタイアや少子化による親子三代型旅行の動向。	かなり大きい	自然等の探求や地域との交流を目的とした、個人型や小グループの旅行が増加していく。
【全般】多様化するアミューズメント施設業界が今後どのように変化していくのか?団塊世代の獲得などもそうであるが、いかに社会環境の変化、お客様のニーズの変化に対応していくかが重要課題であると認識している。	かなり大きい	07年については具体的な動きはそう大きくはないだろうが、今後に向けて団塊世代のニーズに合致する商品が構築されていくのではないか。観光施設、ホテル側などもそれらを意識した展開が見られるようになるであろう。
【海外】ツアーダイヤモンドの透明化(燃料サーチャージほか消費者には不透明な料金徴収の是正)。	やや大きい	これまでのいわゆる「シルバー層」とは違うアクティブなリタイアメント層の増加により、フルエンション型ではないシルバー旅行商品の進化に期待します。
【国内】ガソリン価格。本年は原油価格の高騰により、8~9月間にガソリンが高騰したが、このニュースは国内における車旅行マインドに水をかけることにつながったと推察される。07年においても原油価格には注目したい。	かなり大きい	(前述のとおり)シニア男性の旅行者数の増加。夫婦二人の旅行が伸びており、07年も継続すると思われる。
【全般】ITに習熟し、一人旅、自己手配能力を持つ市場に業界が的確な対応をいかに展開できるかに注視している。	かなり大きい	ターゲットとすべきセグメントがはっきり浮かび上がってくるため、業界内でのマーケティング競争が洗練されるだろう。
【訪日】政府の施策で外客増は見込めるが、それも中国、特に上海からであろう。まだ法的ハーダルのクリアが必要。受け皿である温泉地の宿の倒産、外資ファンドなどの進出で日本の伝統文化・温泉情緒、いわゆる「日本らしさ」が失われつつあるのは重大な課題である。	やや大きい	レジャーそのものの選択肢が多彩な世代。旅に対する欲求は強いが、価値観で分散される可能性がある。ある程度は期待できると思われるが、大勢に変化はないともみる。
【国内】好景気は大企業に強く、サービス業、地方、及び個人消費にはほとんど及ばず国内旅行市場はあまり良くならない。特に供給過剰が続く。	やや大きい	仕事より個人生活を重視する傾向が強くなり、一層個人性旅行が増加すると共に多様化してバラバラな不規則旅行が始まる。かつてみられたような新しいライフスタイルの旅行パターンが徐々に増加しそうです。
【訪日】観光立国推進基本法の成立とそれにより新たな観光政策が打ち出され、観光関連業界全体がより活性化することを期待したい。	やや大きい	女性団塊世代を中心に国内旅行者数、海外旅行者数が増加し、旅行市場全体が若干拡大するものと考える。しかしながら、日本人マーケットは、JNTOの本来事業としていないため、本件は推測の範囲内の回答である。

有識者に聞く2007年旅行マーケットの見通し 観光施設・観光関連団体・有識者等(2)

有識者に聞く2007年の旅行マーケットの動向見通し

氏名 団体名・肩書き	旅行マーケット全体		部門別予想(07年)			07年の注目マーケット／トレンド
	06年 (現況)	07年 (予想)	国内 旅行	海外 旅行	訪日 旅行	
谷口 正和 ジャパンライフデザインシステムズ 代表取締役社長	▲▲	▲▲	▲▲	▲	▲	【国内】日本人の日本回帰、自己回帰の流れで文化、歴史、自然、愛と絆等表層化の中で失ったコトを取り戻し、事故の原風景へのもどり旅として回帰する未来がメニウになる。
原 重一 原重一観光研究所 主宰	◆	◆	◆	▲	▲	【訪日】香港、台湾、韓国それに中国の団体訪日旅行がこのスタイルでいつまで続くか注目している。
北川 博昭 株式会社新聞社 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲	【国内】風趣のある温泉、特色ある味覚。
ペーター・ブルーメンシュテンゲル ドイツ観光局 アジア・オーストラリア・南アフリカ地区統括局長	◆	▲	▼▼	▲	▲▲	【海外】'Last Minutes'. Low Cost Carrier development in the far east to develop new business.
一倉 隆 ハワイ観光局 エグゼクティブ・ディレクター	◆	◆	▲	◆	▲	【全般】国内外旅行全般ですが、団塊の世代(日本人)どが、どういったものに関心を持ち、どのような旅行先、旅行形式、体験を期待しているかどうか。
堀 和典 オーストラリア政府観光局 日本局長	◆	-	-	▲	-	【海外】シニア及びFITマーケットの拡大。団塊世代のリタイアの本格化により、シニア向けマーケットが拡大する。団塊世代は、海外旅行の経験が比較的豊富なため、体験型旅行を好むと思われ、旅行マーケットのFIT化がさらに加速すると予想される。
奥坊 一広 株式会社トーベルニュース 代表取締役	▲	◆	◆	▲	▲	【国内】ありきたりの観光地をまわるツアーではなく、地域住民や地場産業などが地元の魅力ある素材を盛り込んだ着地型旅行(受け地型旅行)の商品づくりと販売がどのように進むか注目している。その中で、特定第3種旅行業がどこまで取り扱うことができるのかが興味深い。
西川 敏晴 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社 代表取締役社長	◆	▲	◆	▲	▲	【海外】リピーター比率がますます高くなった海外旅行市場では、世界旅行博でも見られたように、デステイネーションの広がりが顕著である。ガイドブック(当社発行の『地球の歩き方』)の売れ行き傾向から見ると、中央ヨーロッパ諸国の伸びが著しい。とくに2007年に大きな伸びが期待される国としては、クロアチア、スロベニアだ。ユーロ高が続く中で、中央諸国への旅は日本人旅行者にとって、新鮮さとともに割安感が感じられる国々もある。
江原 卓哉 株式会社ハンターマウンテン塩原 営業部部長	▲	▲	◆	▲	◆	【国内】夏の花開連旅行、冬のスキー開連旅行の全国的な市場動向。
坂倉 海彦 株式会社エボン 代表取締役	▲	▲	▲	▲	▲▲	【国内】関係している仕事柄、スノースポーツ旅行がどのように推移、変化していくのかに注目しています。
神山 逸志 株式会社トラベラーワークス 代表取締役社長	◆	▲	◆	▲	▲	【海外】新しい販売方法の登場。「ダイナミックパッケージ」のように消費者選択肢の多い商品がマーケットを牽引するのではないか。又、オンライン販売の需要がますます高くなると思われる。
丸山 隆司 近畿日本ツーリング志摩スペイン村 代表取締役社長	▲	▲	▲	▲	▲▲	【国内】多様化するニーズに応えるため、現存の観光施設などに温泉や自然、体験を付加し、自治体との連携や観光業全体で集客に取り組んでいる地域。今後は地域全体で話題をつくることが重要になり、顧客に対してあらゆる角度で魅力を訴求していくことが必要と思われる。
大洞 行介 社団法人日本自動車連盟 会員サービス部 部長	◆	▲	◆	▲	▲▲	【国内】マーケットは団塊世代であり、旅行スタイルについてはドライブ旅行に注目している。

(注)*記号:▲▲上昇傾向、▲やや上昇傾向、◆横ばい、▼やや下降傾向、▼▼下降傾向、—回答なし

*コメントの冒頭に【海外】とあるものは海外旅行マーケットに関するコメントであり、以下、【国内】は国内旅行、【訪日】は訪日旅行、【全般】は旅行全般に関するもの

注視している社会・業界動向	【特集テーマ】団塊世代のリタイア	
	効果の大きさ	団塊世代のリタイア効果予想
【訪日】国内と海外の中間に属する東洋、アジア圏の旅人が更に増え、アジアリストがそれぞれの特性文化や自然に触れるライフスタイルツーリズムが開かれた観光を活性化する。	かなり大きい	学習体験型の新修学大人旅行的になるメニウへの支持が増える。平日の旅や長期日程、一人旅が特長として顕在化する。
【国内】「格差」が具体的に旅行現象に影響が出てくるかどうか。温泉旅館を中心とした宿泊産業と企業の動向に注目している。	あまり大きくない	数による影響は値の問題も含めてあまり大きく表れないと思うが、「話題」としてマスコミ、ミニコミをにぎわすと思われる。
【国内】ゆとりある宿泊設備、くつろぎの演出、地域が一体となった環境整備、魅力づくり。	かなり大きい	マーケットの拡大、観光地別入込客数の格差拡大。
【海外】現在私が最も疑問に思っていることは、旅行自体は全世界的に上昇傾向にあるのに対し、なぜ日本は下降しているかということです。	やや大きい	旅行業界が3年後には7百万人にもなると言われる団塊世代の個々の希望や需要に応え、航空会社やホテル業界がそれに対する充分なキャバシティを提供すれば日本の旅行マーケットに大きくポジティブな影響を与えるでしょう。団塊世代の人たちが既にオファーされている旅行タイプに順応しなければならないようだと成功にはつながらないでしょう。
【全般】問3に準ずる。	やや大きい	堅実ではあるが、急速に動く層ではないと思われるため、徐々に顕著な影響が見え始めると予想します。
【海外】余暇の過ごし方として海外旅行のニーズは今もなお高いものの、消費動向における優先順位が低くなつたため観光目的の旅行者がここ数年減少している。よって、量から質への転換が必要とされ個々の消費ニーズに対応できるシステム構築が急がれている。消費者へのコミュニケーションもマスから個へと変化する中、口コミを中心とした消費経験者からの情報が消費動向に大きく影響している。特に海外旅行のような体験型高額商品は体験者の声が意思決定に影響を及ぼすケースが多く、今後は長期的な口コミ戦略とそれを定量評価できるシステムの開発が必要とされる。	やや大きい	リタイア後再就職する人も多いと思われ、マーケットの規模的な拡大への貢献には時間がかかると思われる。ただし、同世代は時間とお金に余裕があるため、高い旅行商品の購入や滞在日数の増加など、質的な発展への貢献は大きいと思われる。
【国内】ネットエージェントによる直予約に対して、大手旅行会社が宿泊予約を直販する新サイトを開設している。旅館・ホテルの直接販売に大手旅行会社が参入することで、ネット予約の世界がどのように変るかに注視している。	やや大きい	団塊世代を対象としたこれまでいないことだわり、体験といった中味の濃い旅行商品が造成されることで、業界の活性化につながる。
【海外】リピーターは、旅の経験を多く持ち、旅行情報の収集にも長けていて、料金の値頃感にも敏感である。2007年の旅行者のインターネットの活用はますます広がり、ネット上の旅行販売サイトの占めるシェアが一段と高まる流れは、止められない。結果として価格競争も厳しくなるが、ネット上の販売手法や流通にも進化の余地があり、2007年は各社の強みを生きしながら、激しい競争と淘汰が繰り広げられることになる。	やや大きい	団塊の世代の市場への影響は、2007年に多くの人が期待しているよう一気に大きなものがでてくるかについては、慎重に考えるべきである。団塊の世代への期待の実現としては、近い将来、国内旅行ブームが起きるかもしれない。海外旅行では、例えば、今までに8日間で旅したコースを12-13日間かけて旅行する人たちが増えるであろう。ヘルス・ツーリズムへの関心が高まる。ロングステイについては、期間も気分もロングパッケージ(滞在)と言った方適切な旅が流行ると思う。
【国内】2006年の旅行市場の見通しは全体として上昇傾向にあったが、それに伴って例年スキービー業界全体が縮小傾向にある中、旅行市場の好影響がどのように反映されるかという点。	非常に大きい	資金、時間に余裕があり、趣味、娯楽に対しても最もアクティブな世代ということもあり、今後の市場動向に大きな影響があると考える。
【全般】第一に高齢化とリタイア世代の急増の影響、第二にようやく企業が人に採用を始めたつまり生活の安定した若いサラリーマン、サラリーワーカーの増加)ことの影響、第三にインバウンド客の動向です。サプライサイド側としては、地域のアイデンティティ回復の動きに注目しています。	かなり大きい	まず、旅行初心者がどつと動き出す可能性がありますが、その後は旅行にじめじめやめていく層と、学習してより深い旅行体験を求める層に分かれいくものとみます。
【海外】航空会社の収支改善の動きに伴い、ハイウェイを始めとする観光路線の減便から来る日本人旅行者へのインパクトの今後。	かなり大きい	団塊世代退職後の消費動向は、不動産業界に次いで旅行業界の拡大に影響すると予測される。高度成長期、企業のグローバル化を実体験され、海外出張も多く、海外渡航経験豊富な世代だけに、世界遺産を巡る旅等、「旅行目的を明確にしたツアーやエアーホテル・観光の「組合せ自由度の高いツアーや」の需要が増えるのではないか。
【全般】経済が安定し、家族所得も増加傾向にあるが、余暇にかける費用にどれほど反映されるか。また、新たな余暇の過ごし方が定番化した場合、余暇市場の中で旅行に占める割合が縮小する可能性がある。	やや大きい	「くつろぎ」や「癒し」を目的とした、旅行日数の多い旅行形態が若干増加するものの、すぐには旅行マーケットに大きく影響しない。ただし、この世代は本物志向が強く、観光地の水準や料理の質などが問われるため、旅行市場は多様化するニーズに対応する力と質的な向上が望まれる。
【国内】インターネットを利用した情報や予約が益々増加すると思われる。また、価格競争も激しくなるのではないか。	やや大きい	リタイア後一時的には動くが、時間が経つにつれて落ちていくと思われる。最初のうちに、それらの世代をどれだけ取り込めるか、そしてリピーターにつなげられるかで後に影響してくる。